

若い力が

インフラを守る

構造物の劣化点検 実地に学ぶ 市も頼る眼力

インフラを守れ。高度成長期、バブルなど日本経済が右肩上がりだった時代に急ピッチで整備された社会資本インフラ。月日が流れ老朽化が課題となる今、高等専門学校（高専）を舞台にインフラの長寿命化への取り組みが進む。ここでも「社会実装教育」が根底にある。

舞鶴高専



巨大なコンクリートの目を付けた。「公共投資」が浮き出た鉄柱、資が減りスクラップもなければビルドもない。あ。深い緑に囲まれた舞鶴工業高専（京都府舞鶴市）の一面に美術館の屋外展示のような場所がある。劣化・損傷した構造物の一部を全国の自治体や鉄道会社、道路公社などから集めた。インフラの維持・管理に関する実践教育のため2014年に設けた「社会基盤メンテナンス教育センター（i Mec）」の生きた教材だ。地元の舞鶴市が、ここで培われる舞鶴高専の力

旧余部鉄橋の構造物を前に学生たちに説明する玉田教授（右奥）

に実感してもらいたい」（矢谷部長）と、卒研の発表の場として市政記念館ホールを提供。発表者に市職員などが疑問や意見をぶつけ、活発に問答する。高専と自治体が二人三脚で関係を深める。i Mecの特長は構造物の劣化、損傷を実物を見て学べることだ。構造物の劣化の様子や設計・



中村建設と共同で開発したロボットを使って橋の下部を点検する沼津高専の学生

橋封鎖せずロボ調査

「人手不足の建設業界に高専の技術を生かせないか」。沼津工業高専（静岡県沼津市）の青木悠祐講師の研究室は2014年から中村建設（浜松市）と共同で「橋梁調査点検ロボット」の研究を進めている。

「人手不足の建設業界に高専の技術を生かせないか」。沼津工業高専（静岡県沼津市）の青木悠祐講師の研究室は2014年から中村建設（浜松市）と共同で「橋梁調査点検ロボット」の研究を進めている。

「人手不足の建設業界に高専の技術を生かせないか」。沼津工業高専（静岡県沼津市）の青木悠祐講師の研究室は2014年から中村建設（浜松市）と共同で「橋梁調査点検ロボット」の研究を進めている。

沼津高専

着想おもちゃから

「人手不足の建設業界に高専の技術を生かせないか」。沼津工業高専（静岡県沼津市）の青木悠祐講師の研究室は2014年から中村建設（浜松市）と共同で「橋梁調査点検ロボット」の研究を進めている。

「人手不足の建設業界に高専の技術を生かせないか」。沼津工業高専（静岡県沼津市）の青木悠祐講師の研究室は2014年から中村建設（浜松市）と共同で「橋梁調査点検ロボット」の研究を進めている。

「人手不足の建設業界に高専の技術を生かせないか」。沼津工業高専（静岡県沼津市）の青木悠祐講師の研究室は2014年から中村建設（浜松市）と共同で「橋梁調査点検ロボット」の研究を進めている。

「人手不足の建設業界に高専の技術を生かせないか」。沼津工業高専（静岡県沼津市）の青木悠祐講師の研究室は2014年から中村建設（浜松市）と共同で「橋梁調査点検ロボット」の研究を進めている。